

令和3年12月14日(火)

【第22回北陸地域連携プラットフォーム】

質疑・意見交換

【司会】

次に、意見交換に入りたいと思います。

また、その前段の内閣府、谷本様からの御説明、あるいは私のほうからの説明内容についての御質問や御意見、あるいは今回のテーマに関しての普段の考え方でも結構でございます。なるべく多くの方々から御意見を頂戴できればと思っております。

御発言がある際は、大変恐縮でございますけれども、お一人様3分程度でお願いいたしたいと思います。どなたか御意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【メンバー】

最初の谷本参事官のお話の中で、7ページにありましたように、テレワーク等により働く場所が自由になった際の理想の居住地として、地方を選ばれている方が6割もいらっしゃいます。それに加えて、20代、30代の若者の関心が高いというところに、地方にもチャンスがあるということを実感しており、我々の果たす役割は多岐にわたるのであると考えています。

そして、板橋支店長からは、いわゆる地域価値指標のお話がありましたが、そのような考え方には大いに賛同します。最後の結びのところで域内総生産の増加とありますが、これは地域の価値、豊かさを評価する指標だと思いますが、豊かさを評価したいのであれば、県あるいは域内のいわゆる所得の増加も指標に入れるべきだと感じました。

次に、地域の魅力、資源のところですが、実際に自県にいらっしゃってサテライトオフィスを開いた方にお話を伺うと、全国的に美味しいものやきれいな景色というのはどこにでもあるのですが、それが決定打ではないとおっしゃるのです。では何が決定打かという、やはり人との触れ合いだとおっしゃっていて、そのようなきっかけをどうつくるかがまさに我々の仕事だと思っています。実際は観光であったり技術であったりしますが、どのように地域の魅力を理解していただくのが良いだろうかと日夜考えています。

地域の魅力、地域資源とは、生活そのものなのだろうと思っています。きっかけや人との触れ合い、体験をどう作っていくかということに尽きると思います。自県の場合は近い将来新幹線が開通するので、観光は無視できません。そこで観光面にてこ入れが必要と考え、私どもの銀行でも地域観光商社を設立して観光の支援をしたいと思っています。今後我々の果たす役割は大きいと思っているので、意見として申し上げました。

以上です。

【司会】

どうもありがとうございました。

そのほか、どなたか御意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【メンバー】

大変興味あるお話をありがとうございます。

1つ、私どもは情報産業なので、DXも含めてテレワーク、リモート会議については大変評価をしています。全体的に思うのは、最近働き方改革とって働きやすさばかりを表現するという傾向になっているような気がします。

本来ならば、働きがいがある企業づくり、そういうことがいかにアピールできるか、そこが一番重要なんだろうと思います。確かに、テレワーク、リモート会議をやりますと、移動時間がなくなりますから、旅費、交通費も要らなくなる。福井から、私どもは全国でやっていますので、往復6時間、何だかんだ1日移動ということになります。それが全部テレワークとリモート会議になると、1日で札幌、東京、福岡という3つの会議に出席できるということなんですが、テレワークの課題としては、コロナの全盛期の頃は、私どもも東京では4日テレワークにして、1日だけ会社に行くということで、5分の4はテレワークとしていました。

そこで重要なのは住環境です。自分のアパートやそういうところが、ちゃんと仕事ができる環境になっているのか。それから、いろんな誘惑がありますよね。すぐそういう誘惑に負ける。あとはセキュリティーの問題がありますけれども、やっぱり生産性だけを考えると難しいと思います。私どもは8割の生産性をイメージしたんですけど、1日7.5時間で8割というと6時間なんです。1時間半は遊んでいていいよということになるんですね。

基本的には、データベースにアクセスするとどんな状況か分かるので、誰がどれだけ仕事したのかが分かりますが、それは社員からやらないでくれと言われたので、やっていません。

やっぱりジョブ型のスキルを持っている人は、かなり有効的に生産性を上げていますが、メンバーシップ型、特に5年生以下はほとんどテレワークで悩んでいるという実態がありまして、ただ大分慣れてきましたので、そういった点では少しずつ生産性は上がってくると思います。

そういう意味で、テレワークはこれからも継続していきますけれども、地方に人を呼び込むときに、テレワークが正しい手段になりえるだろうかという気はしますね。その辺が重要でして、東京に行って営業したいという若手が、福井本社になかなかいないんです。それで、福井銀行さんからの橋渡しで、東京の人材派遣会社を通じて2人内定を出しました。そういう形で、人の採用も今後いろんな形で変わってくる。

また、福井から出て東京とか大阪で社長とか役員になっている方の名簿を作ってピンポイントでプロモーションをするほうが効率的ではないかと思えます。

あと、32、33歳になると、子供ができて、ちょっと落ち着いてきて、第2の人生を考えることになるんです。そうすると、子育てを田舎でやりたいと考えてUターンで帰ってくる人がいらっしやるので、今3人ほど採用しましたけれども、子育てというのが非常に重要なキーワードかなと考えています。

【司会】

体験に基づいた貴重なお話をどうもありがとうございました。

どなたか御意見のある方はいらっしやいますでしょうか。

【メンバー】

私からは、北陸地域への新たな人の流れに関する当会の問題意識と取組について少し紹介させていただきます。

北陸地域につきましては、3大都市圏からの距離的な近さ、災害発生リスクの低さ、豊かな自然環境といったように、経済活動や生活環境の面で魅力がある地域と考えております。また、今般のコロナ禍では、東京一極集中のリスクが再認識されたことによりまして、地方への企業移転、テレワークや副業、兼業などの新たな働き方を活用した地方移住への関心の高まりなど、地方へのかつてない動きが表面化しております。

しかし、現実には人の流れを見てみますと、北陸地域のような比較的首都圏から離れた地域におきましては、東京からの受皿にはなり得ていないというのが現実となっております。

このような状況の中で、北陸地域の魅力向上、関係人口を含めた流入人口増加のためには、まず北陸新幹線をはじめとする交通インフラの整備、また性別などにかかわらず多様な人材が能力を発揮でき、生き生きと幸せに暮らせる社会の実現、あるいはダイバーシティ&インクルージョン、広域観光の推進強化、魅力的な職場・職業の創出、さらには社会インフラとしての医療提供体制の整備、教育、文化、商業施設の集積などが必要と考えております。

このような問題意識の下で、当会の取組について、2点ほど紹介させていただきます。

取組の1点目ですが、政府に対する要望活動になります。地方に人を呼び込むためのインフラを整備するためには、国の支援が必要不可欠と考えております。具体的には、北陸新幹線の新大阪までの早期全線開通、女性やシニアも活躍できる環境整備に対する支援、インバウンド促進や観光インフラの充実に対する支援、また大都市から地方への企業移転を促すインセンティブ施策、地方拠点強化税制の強化などについて、毎年政府に要望活動を行っております。今年度は、先週12月10日に与党の関係議員や関係省庁に対して要望活動を行ってまいりました。

取組の2点目ですが、富山県、石川県、福井県、北陸電力、あと当会の5者で北陸イメージ

アップ推進会議という会議体を設置してありまして、広域観光の推進や北陸への移住定住促進に向けて、北陸の魅力を情報発信するという活動を行っております。今年度は各県のワーケーション施設の掲載をするという活動を行っておりまして、今月中には全ての県の掲載が完了する予定です。

また、ホームページに掲載するだけでは、見てくれる方というのは限られておりますので、ホームページの認知度向上に向けまして、首都圏、関西圏、中京圏に住んでおられます、特にワーケーションに高い関心を持っておられる方をターゲットとしました広告を行うことを考えております。

以上、簡単ではございますが、北陸地域への新たな人の流れに関しまして、当会の問題意識と取組について御紹介させていただきました。ありがとうございました。

【司会】

どうもありがとうございました。

そのほか、どなたか御意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【メンバー】

本日は参考になりますお話をいただきまして、ありがとうございました。

テレワークの進展で地方からの転出が減少して都市圏からの流入が地方にあるとのことは、実際に今起こっている現実だと思います。

この点については間違いないですけれども、ただ、それを本当に北陸3県に人を呼び込むことができるかということなんです。私どもが今連携していますアステナホールディングスさんは、珠洲にいらっしゃっていますが、珠洲に何があるんですかと担当者が社長に聞いたらしいんですけど、社長がおっしゃるには、こんな魅力のあるところはないと。珠洲出身でもない方がそこまで思い入れを持っておっしゃられる。恐らく何かバケーションでいらっしゃって、珠洲の良さに気がつかれた方だと思います。

ただ、そこで生活されておいでる方にお話をお聞きしますと、お子さんの教育が本当に大丈夫なのか、車の免許がない奥さんがいらっしゃる場合、買物に行けない、こうした不便さなど、様々な課題が地方にはあります。

そういった地方で生活することの課題を解決してあげることが必要です。例えば社会的なインフラをしっかりと整備してあげる必要があると思います。それが金沢近郊や小松など、住みやすい、働きやすい都市と言われていたようなところでは、ある程度の課題については解決されているのかもしれませんが。ただ、そういった課題があることも踏まえた上で、どんどん企業を呼んでいただくことが必要だと思います。

ですから、地方への大手企業の一部機能移転でありますとか、今までは工場移転、工場誘致

という形が多かったんですけども、事業所誘致といった動きというのでも公的な機関を通じてできないかなと思います。そういったことはなかなか難しいかもしれませんが、オーナー企業であったり、そういった企業さんとかの人づてということはどうしてもありますので、そういった形での事業所移転の誘致をやっていただけたらという思いがあります。

また、特に石川県などは大学生の転入者が多い地域ですから、大学に入った学生をその地域で住まわせていただく、そういう取組は何かできないかなという思いもあります。

採用について申し上げますと、私どもも昔は金沢大学の学生さんを5、6人、毎年採用していたんですけども、その際、実は地元の出身者ばかりでした。なぜかというと、地縁がないと、採用後もずっと住み続けていただけないのではと考えていたからなんです。

ですが、最近は、実は岩手県や静岡県から来ている金沢大学の方でも採用しています。この地域で学生生活を送られた方というのは、この地域の魅力を分かっているからで、そういった意味での採用を柔軟にさせていただきたいと思います。柔軟にさせていただくというのは、他の地域でも出来るんでしょうけど、大学との密接な連携というのでも必要なのかもしれない。テレワークも進展していますし、学生さんが地域でそのまま勤めていただけるように、金沢大学さん、金沢工業大学さん、福井大学さん、富山大学さんなどの大学と連携して、何か運動ができないのかなという思いがあります。

あとは、パソナさんの地域進出や秋田や岩手へも進出している企業がありますので、そういったモデルケースをアピールしていただいて、誘致を進めていただけたらなという思いでおります。

今後もこの地域にずっと定住されるような方を増やしていく取組を地道に行っていきたいと思っております。

以上です。

【司会】

どうもありがとうございます。先ほどメンバーからのお話にもありました、どういうふうにご存知かということの1つの具体的な御提案をいただいたのかなと感じました。

そのほか、どなたか御意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【メンバー】

2点申し上げたいと思います。

日本政策投資銀行の板橋支店長が作られた資料で、21、22ページの住民満足度アンケート等に基づく新たな地域価値指標の試作、これは非常に面白い発想だなと思って感心して見ておりました。地域の魅力というのは口では言えるけれども、数値、見える化して説明するのはなかなか難しい。そういう意味では、財務局の資料でも同じように6ページにありますけれども、

北陸地域の魅力、これも一覧表にして書かれていますけれども、こういうものを見れば一目瞭然で、暮らしやすさ、働きやすさ、子育てのしやすさ、こういったものが北陸は非常にレベルが高い、これは暮らしの質が高いということなんだろうと思います。要は1つの大きなセールスポイントになるだろうと思います。

結局、こういった暮らしやすさ、働きやすさ、子育てしやすさのポイントを1つずつ磨き上げていって、トータルとしての魅力を高めていくということが必要なだろうと思います。やっぱりこの地に来てもらわなきゃ、この地の魅力というものを知ってもらわなきゃならないし、その際にこういった資料、指標というのは非常に有効に活用できるんじゃないかなと思いました。

もう一点は、テレワークに関して言うと、大都市と地方では普及のレベルが全然違うわけです。業種によってもそれは違います。地方でも情報産業に特化したような企業はテレワークの比率が高いですけれども、ほかはそうではないです。やはり大きな違いというのは企業規模にあります。従業員10人以下の非常に小さな企業というのは、7割以上がテレワークを考えていないという回答だと思います。300人以下でも5割が「テレワークは無理です」と、そんな回答だという調査を見ました。

やはり地方、北陸もそうですけれども、中小・零細企業が非常に多くて、なかなかテレワークという新しい働き方に対する拒否感というか、頭から導入は難しいと考える傾向はまだまだあると思います。まして、コロナ禍が少し収まってくると、そういうテレワーク熱も冷めていくので、それが少し気になります。テレワーク移住を呼び込む際に、テレワークという働き方が浸透していない地域に果たして根づくのか、来てもらっても長く住んでもらえるのかという点に非常に疑問があって、それは地方の中小・零細でも取り組めるテレワークという働き方のノウハウ、そういったものを構築していく必要があると思いました。

以上です。

【司会】

ありがとうございます。後段のところ、要するに外から来ていただくということばかりではなくて、地元の企業もテレワークを推進していかないと、なかなかPRにつながっていかんんじゃないかという、非常に貴重な御意見だなと思いました。

そのほか、どなたか御意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【メンバー】

実は今のお話と同じことがあって、テレワークとかDXとか様々な言葉が出てくるのですが、富山県は県内生産の4割近くが第2次産業です。私は富山県の機電工業会、要は機械と電気、電子の工業会の会長もやっております、県内最大の事業団体なんですけれども、二百数十社

ありますが、7、8割が今お話があったように、従業員が2桁以下の会社です。要は、製造業かつ規模の小さな会社がテレワークやDX等となると、もっと簡単には感じないわけです。そうすると、そういう会社の経営者たちが、なるほどと思えるような何か成功例を作り出さないと、なかなかこれは進まないと思います。これが第1点目です。

第2点目は、実は昨日、経済界の主要な方たちと会食があって、そのときに、大学で北陸から首都圏に行った女性たちが地元に戻ってこない、これは何でだろうという話をしていたときに、たしか北経連さんがアンケート調査したものがあったんですが、彼女たちは北陸の保守的な、地元の、自分たちの住んでいるところの雰囲気、周りの人たちの目、暗い感じ、そういうことが嫌なんじゃないか、とか、そういう女性たちが戻ってきたいと思うほどの魅力のある男性が地元にはいないんじゃないか、そんな話をしていました。

お酒の席ではありましたが、なるほどなど、アンケートには表れない、陰に隠れたような原因があるのだなと思って、その辺は我々地元の間が改善していかなくてはいけないなと感じました。そういう感想2点でございます。

以上です。

【司会】

ありがとうございました。本音のところをある程度意識をしたような対策を考えていく必要があるという話かなと感じました。

そのほか、どなたか御意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【メンバー】

谷本参事官に質問なんですけど、これは皮肉でも何でもありませんけど、霞が関の官僚、あの場所というのは働きづらい場所のような気がするんですね。でも、かなりの人が採用されている。きっと働きがいがあるということだと思うんですけども、お考えをぜひ教えていただきたいと思います。

それから、当社では、福井から東京の事業所に転勤というのは、結構みんな嫌がるんですね。でも、若い人に行っていこうということで行かせるんですけど、大体、東京で結婚すると、ずっと東京にいます。奥さんが福井の田舎に行きたくないということで、残ってマンションを買って東京に住むことになるんです。その辺もうまく考えないと。そういう意味では、呼び込むのも大事ですけど、流出させない仕組みを考えていかないと、どんどん地方は人材不足になる気がするので、その辺の皆さんの良い御意見を、特に参事官のほうからお聞きしたいなと思っています。お願いします。

【司会】

谷本参事官、いかがでございましょうか。

【谷本参事官】

後者のほうは、私自身は東京出身で東京で就職した者ですので、北陸から東京にいらっしゃった方の気持ちを私もよく分かっていません。前者の霞が関で仕事をしている人ということだと思いますと、昨今はなかなか公務員に対して厳しい目があるのと、コロナでかなり危機管理的な業務が霞が関全体であったりして、そんな中でいろいろ働く環境が厳しいということで、昨今すごく敬遠されるような感じにはなっているんですけども、基本的にやはり国家公務員ということで、国の政策とかを取り扱うということで、それなりに方向性がしっかりしている業種ではあるのかなと。

あと、いろいろな専門性に基づく業務内容があるので、ここに行きたい、ここで働きたいとかというのはかなり明確にできるような場所なのかなというふうには漠然と思っています。

私は大卒で入りましたけれども、それ以外にもいろんな形での採用がありますので、そういう形もあるのかなと思います。

ちょっと東京一極集中の方に向けるような話をしてしまいましたけれども、逆に地方で魅力的な仕事があると、惹きつけられる人も出てくるのかなと思います。

完全に私の意見でございます。

【司会】

どうもありがとうございました。

お伺いの内容としては、仮説で考えていらっしゃる働きやすさと働きがいと、両方セットになって人を呼び込めたり、流出を防げたりするんじゃないかというお話ではないかと思います。

【谷本参事官】

そういう意味では、最近は働きやすさという点でも、霞が関全体で取組は進めてるようには感じます。それが実現しているかどうかというのはいろいろ御意見あると思いますけれども、それはそれで進めているという雰囲気は感じています。

【司会】

どうもありがとうございました。

そのほか、どなたか御意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【メンバー】

大学にも保護者会があり、役員会で聞いた話を紹介します。子どもの就職が大きな関心事で、

保護者会主催のセミナーなども企画しています。その会合の出席者の子どもで富山に戻ってきて就職する人はゼロでした。

富山の自然や食べ物の魅力を知っていても、田舎特有の窮屈さも感じている。就職先として考えたとき、どこの地域で働くかよりも、やはり職種を重視します。

今日拝見した資料では、地方移住に関心がある人の割合が20代、30代で高くなっていました。でも最初の就職先としては意識がそこまで行かず、1回勤めてみて何か違う、自己実現できないと思ったときに地方移住が選択肢になる気がします。そうやって富山で仕事を見つけた人は定着率が高く、真剣に仕事に向き合っている印象があります。地元の人が気付かない魅力を感じ取る、発見する能力にも長けています。

就職活動は私の学生時代と様変わりし、ネットが活用されているようです。いくつか紹介すると、逆求人サイト、エージェント登録、マッチングイベントなどは学生が無料で利用できるので、3～5人に1人ぐらいは使っており、ほかにも有料の就活支援ツールがいろいろあるようです。

面接や会社説明会もネットが多用され、コロナ禍になってますます増えています。学生はネットを駆使して就職先を探すので、地方の企業にとっては、どうリーチすればいいのか、なかなか難しいだろうと思います。

私の会社に入ってくる学生は、以前は富山県に居住地があることを条件にしていたのですが、そうした条件がなくなり、県外出身者が増えています。地元出身者にUターンしてもらうだけでなく、全国各地に対象を広げることが大切だと思います。今ではどこの自治体も移住者を増やそうと、住居手当などで競争しているので、獲得するのは大変です。テレワークに対応できる環境を備えておくことも大事だと思います。

【司会】

ありがとうございました。広い視点で物を考えることの大切さを教えていただけたのかなと感じました。

そのほか、どなたか御意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【メンバー】

せっかくでございますので、一言だけ申し上げたいと思います。

皆さんの意見のとおりでございますけれども、私が日頃考えていること、感じたことを申し上げたいと思います。

私は、北陸地区の協会の会長をしておりますけれども、出身は福井でございますので、福井県のことを申し上げますと、先ほど北陸財務局の鈴木様からの御説明の中で、ここに捉えてあります新たな人の流れについての資料、8ページにございましたけれども、進出の経緯、企業

からの聞き取りということで、非常に正確に捉えているなというのが1つございます。

それは、福井のIT化のところで、共働き率が高く、そして働く意欲の高い女性が多いということが書いてございましたけれども、私どもの経験したところでは、ドラッグストアでございますけれども、ある企業が福井県に進出してきまして、そのコンサルの方が言っているのを聞きますと、福井県の女性は非正規社員、パートであるけれども、非常に前向きに働いていただいて、ものすごく福井県は人を採用しやすいと。そして、積極的にそういうようなものがあるということを聞きますと、やはりここで捉えられているようなことが福井県、他の地域でもあるのかなと感じました。

そういう意味におきまして、賃金の問題もあると思いますけれども、我々は特に金融機関でございまして、先ほど就職のこともありましたけれども、我々の企業で採用する、やはり都市部、特に東京からの採用といたしますと、なかなか来てくれない。かつては採用できましたけれども、最近ここ数十年はあまり来てくれないということで、ここら辺も1つネックになっているかなと。

また、地元の大学生が就職という形になりますと、都会に行って帰ってこない、当然、都会の大学に行った人はほとんど帰ってこないという、いろんな人からの話にもありました通り、そういう悩みを抱えているのがこの地方ではないかなと感じているところでございます。

以上でございます。

【司会】

どうもありがとうございました。

そのほか、どなたか御意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【メンバー】

私は、北海道出身でございまして、北陸3県以外の出身者、外から見た北陸の魅力って、皆さんもうお分かりのとおり、自然、飲食、歴史、伝統、皆さん共通して分かっていることなんですけど、新幹線が通って首都圏がより身近になって行き来しやすくなったというのは、北陸3県以外の人にとってはものすごい魅力だと思うんです。

今日のテーマにあります、テレワークを活用してという部分でいいますと、ダイナミックプライシングの活用も有効だと思うんですが、例えばですけれども、平日テレワーク割引、宿泊施設とか新幹線の料金がそういうふうになれば、平日のテレワークでお得感もある、使いやすい、そういうことがいろいろできると、北陸を訪れる、体験する人が増えると思うんですね。定住するか移住するか、事務所を開設するかは別にして、交流する人が増えた延長でその先があるという仕組みができれば、もっと北陸を訪れる人が増えるんじゃないかと思います。

以上です。

【司会】

具体的な御提案をいただきまして、ありがとうございます。

まだ少しお時間ありますが、どなたか御意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

では、目黒局長、お願いします。

【目黒局長】

事務局なので、あくまでオブザーバー的な立場からお話をさせていただければと思います。私は福島出身でして、大学のときに東京に出て、その後霞が関で働き、今年の7月に初めて北陸勤務になりました。直前の職場が研究所で、特にテレワークに適した職場であったこともあり、コロナ禍にあってテレワークの日が多かったんです。そうすると、テレワークなりの苦労というのもあって、例えば家が狭いこと、特に若い人だと狭い家でどうやってテレワークするんだろうと、一方で、出勤するとなるとコロナのことが心配だったりします。

そういった日々を続けてきた身からすると、北陸に来て、持ち家で、車で通勤されてという状況、町並みも含めて、本当に魅力あふれる土地だなと感じて、コロナでいろいろとライフスタイルや価値観が変わるようなところで、改めて北陸の魅力を発信して人の流れを生み出せないかと、そういう問題意識を提示申し上げて、いろいろ今日御議論いただきました。

ただ、お話を伺って難しいなと思いましたが、個人にとっては、魅力があるところに住みたいという気持ちは、ある意味自然に持つ一方で、企業から見ると、経済合理性がないとなかなか職場をその場所に持っていけないんだという話があって、確かにそういう面はよく考えていかなきゃいけないなと思いましたが。

一方で、企業のほうも、いわゆる伝統的な経済合理性と言いますか、短期的な利益という面からの経済合理性から、例えば自然環境や地域への貢献ということも企業も目線として持って、狭い経済合理性というところから少し離れて見るような企業も、時代の流れによって増えているようなところがあるのかなとも思いました。

北陸は魅力があるというところは皆さんもそう思っておられるし、データもあります。それをどうやって新しい人の流れに繋げていくかということになると、最初は個々人の状況に応じた細かい話にならざるを得ない面もあるかと思います。ただ、何もやらないでいると物事は変わりませんので、少しでも新しい人の流れに繋げるためにはどうしたらいいか。先ほど何人かの方から、人と人との触れ合いなどで知ってもらうのが大事だというのは、まさにそうだなと思います。今はテレワークに限らずオンラインが普及して、情報の発信や人の採用など、そういうことも全国ベースでやりやすくなったという面もあると思うので、そういった考え方というのもありかなと思います。

感想も含めて申し上げました。ありがとうございます。

【司会】

どうもありがとうございました。

ほかに御意見ございませんようでしたら、少し時間は早いですけれども、意見交換をこれにて終了とさせていただきたいと思います。

活発な御意見をいただきまして、どうもありがとうございました。

以上